

鹿児島県大隅諸島上三島のコメツキムシ

鈴木 互^{*1}・小島 弘昭^{*2}・柳原 健人^{*2}・堀内 一樹^{*2}

Elaterid Beetles from the Kami-Mishima Islands of the Oosumi Islands, southwestern Japan

SUZUKI Wataru^{*1}, KOJIMA Hiroaki^{*2}, YANAGIHARA Takehito^{*2} and HORIUCHI Kazuki^{*2}

Abstract : This study compiles records of click beetles (Coleoptera: Elateridae) collected from the Kami-Mishima Islands, Kagoshima Prefecture, between July 2016 and October 2023, along with previously reported data and available specimens. A total of 23 species were identified across the island group, including 3 new records from Takeshima Is., 3 from Iwojima Is., and 4 from Kuroshima Is. Additionally, re-examination of earlier specimens resulted in the exclusion of one previously recorded species each from Kuroshima Is. and Iwojima Is. Kuroshima Is., the largest island with well-preserved natural vegetation, exhibited the highest species richness, while Takeshima Is. and Iwojima Is., characterized by severely depleted natural vegetation, showed lower diversity.

はじめに

鹿児島県大隅諸島上三島は、鹿児島本土から40～50km離れた三島村に属し、有人島の竹島、硫黄島、黒島と無人島のデン島、昭和硫黄島からなる (Fig. 1)。最大の黒島でも面積がわずか15.39km²と狭く、そこに標高704mの硫黄岳 (硫黄島) や620mの櫓岳 (黒島) といった高い山が大きくそびえ立っている (公益財団法人日本離島センター, 2019)。九州本土との距離が近いこともあり固有の甲虫は少ないが、ミシマコクワガタ *Dorcus (Macrodorcus) rectus mishimaensis* Tsuchiya, 2003 (三島村, 男女群島, 口永良部島), クロシマノコギリクワガタ *Prosopocoilus inclinatus kuroshimaensis* Shimizu et Murayama, 2004 (黒島), そしてワタナベクシコメツキ *Melanotus watanabei* Ôhira, 2002 (黒島) などが知られている。

上三島のコメツキムシについては、これまでに福田・廣森 (2002), 中峯 (2007), 中峯ほか (2012), 大平 (1976, 1997), Ôhira (2002) により未同定種を含め20種の報告があるが、全体をまとめられたものではなかった。2016年7月～2023年10月にかけて筆者の小島らが中心となり竹島、硫黄島、黒島の有人島で調査が行われ、多くのコメツキムシが得られた。この中には新分布種も含まれていたため、これを機に既知の記録や鈴木の手元にある標本と合わせて整理し、上三島のコメツキムシをまとめて報告する。なお、各島初記録の場合は島名の後にアステリスク「*」を付し、上三島

から初記録の場合は備考欄に明記した。

三島村での調査にあたり、許可申請等でいろいろとお世話になった三島村役場定住促進課ジオパーク推進員の坂本房江氏に厚くお礼申し上げる。また、貴重な標本をご提供くださった故青木淳一博士、東京都の藤田宏氏と三島市の土屋利行氏、鹿児島県立博物館所蔵の標本調査を許された同博物館の中峯敦子氏、ウグリチビマメコメツキの交尾器の形状についてご教示いただいた大阪市の有本久之氏に深く感謝申し上げます。

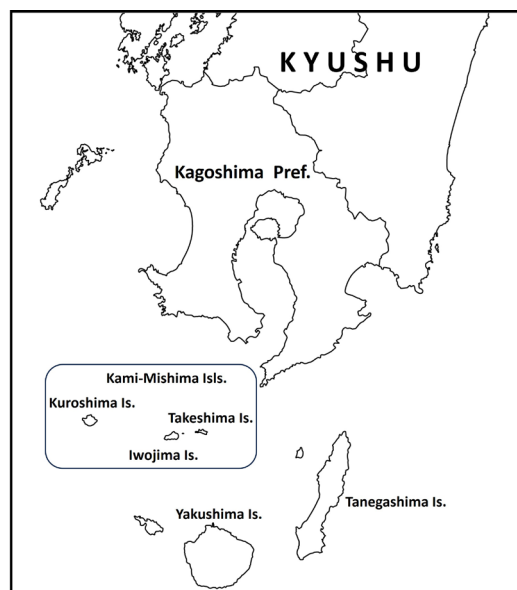


図1 鹿児島県三島村の地図

(Map of the Kami-Mishima Islands, Kagoshima, Japan)

*1 〒370-3333 高崎市高浜町422-1

*2 〒243-0034 厚木市船子1737 東京農業大学昆虫学研究室

種目録

1. サビキコリ

Agrypnus (Agrypnus) binodulus (Motschulsky, 1861)

【黒島】

文献記録：大平 (1976: 35, pl. 8, fig. A [*Agrypnus (Agrypnus) binodulus binodulus*]); 藤田 (1978: 24 [*Agrypnus binodulus binodulus*]); 大平 (2002a: 13 [*Agrypnus (Agrypnus) binodulus binodulus*]); 福田・廣森 (2002: 32 [*Agrypnus binodulus binodulus*]); 中峯ほか (2007: 93 [*Agrypnus binodulus*]); 水野・岸井 (2014: 117-119 [*Agrypnus (Agrypnus) binodulus binodulus*]).

採集記録：1 ex., 櫓岳入口, 10. IX. 2016 (L.T.), 小島弘昭採集.

【竹島】

文献記録：中峯 (2006: 59 [*Agrypnus binodulus binodulus*]).

備考. 本種は北海道から九州まで広く分布するが、上三島の記録は屋久島や種子島と並んで、ほぼ南限に位置する。

2. ミゾムネヒメサビキコリ

Agrypnus (Sagojyo) yuppe (Kishii, 1964)

【黒島】

文献記録：大平 (1976: 36, pl. 8, fig. B [*Sagojyo*!] *yuppe*); 藤田 (1978: 24 [*Agrypnus yuppe*]); 中峯ほか (2007: 93[同]).

採集記録：1 ex., 大里, 4. VII. 2016, 小島弘昭採集; 1 ex., 片泊, 13. IX. 2016, 小島弘昭採集; 1 ex., 中里林道(中里~片泊), 10. V. 2017, 小島弘昭採集.

備考. 黒島の個体は、他の地域に比べ体は幅広い。黒島は本種の分布域の北限に位置する。

3. ハマベヒメサビキコリ (図2)

Agrypnus (Colaulon) miyamotoi miyamotoi
(Nakane et Kishii, 1955)

【黒島】

文献記録：大平 (1976: 36. pl. 8, fig. C [*Colaulon miyamotoi tsukamotoi*]); 大平 (1997b: 154); 大平 (2002a: 14); 福田・廣森 (2002: 32 [*Agrypnus scrofa*]).

採集記録：1 ex., “場所 三島村 / 日時 2001. 6. 28 / 採集者 T. Hiromori // コメツキムシ科 / ♂ ♀ ヒメサビ / キコリ // IN99316890 [福田・廣森 (2002) によりヒメサビキコリとして記録された標本]” (鹿児島県立博物館所蔵); 1 ex., 片泊,

13. IX. 2016, 小島弘昭採集; 1 ex., 片泊, 21. IV. 2023, 小島弘昭採集; 2 exs., 片泊集落, 1. X. 2023, 堀内一樹採集.

【硫黄島】

文献記録：大平 (2002a: 13, pl. 4, fig. A [*Agrypnus (Colaulon) miyamotoi*]; 大平 (2002a: 14, pl. 4, fig. B [*Agrypnus (Colaulon) tsukamotoi tsukamotoi*]).

採集記録：1 ex., 平家城跡, 25. IX. 2023, 柳原健人採集.

【竹島*】

採集記録：1 ex., 集落周辺, 23. IX. 2023, 柳原健人採集.

備考. 大平 (1976) により *A. (C.) miyamotoi tsukamotoi* (Kishii, 1956) として黒島から記録された種は、大平 (1997) により上記の亜種に訂正されている。

大平 (2002a) は *A. (C.) tsukamotoi tsukamotoi* (Kishii, 1956) という学名で黒島から記録しているが、記録に用いられた標本の雄交尾器を確認したところ、名義タイプ亜種と大差ないことが明らかになったので、訂正したい。さらに、福田・廣森 (2002) がヒメサビキコリとして記録した個体を鹿児島県立博物館から借用して調査したところ、本種の誤りであることが明らかになったので、ここで訂正すると共に、ヒメサビキコリの分布域から黒島を除外する。

後翅が縮小したコメツキムシで、海浜などの砂地の環境に生息する。黒島は本亜種の分布域の北限に位置する。

4. ケシツブスナサビキコリ (図3)

Rismethus ryukyuensis Ôhira, 1999

【黒島*】

採集記録：5 exs., 片泊港, 3. VII. 2023, 堀内一樹採集.

【硫黄島*】

採集記録：13 exs., 平家城跡, 25. VI. 2023, 堀内一樹採集; 4 exs., 平家城跡, 25. IX. 2023, 柳原健人採集.

【竹島*】

採集記録：7 exs., オンボ崎, 29. VI. 2023, 堀内一樹採集.

備考. 上三島から初記録。台湾の緑島から琉球列島、そして九州本土の海浜に広く生息する。後翅が退化し、上翅は左右が癒合して飛ぶことはできないことから、海流により分布を広げたものではないかと考えられる。

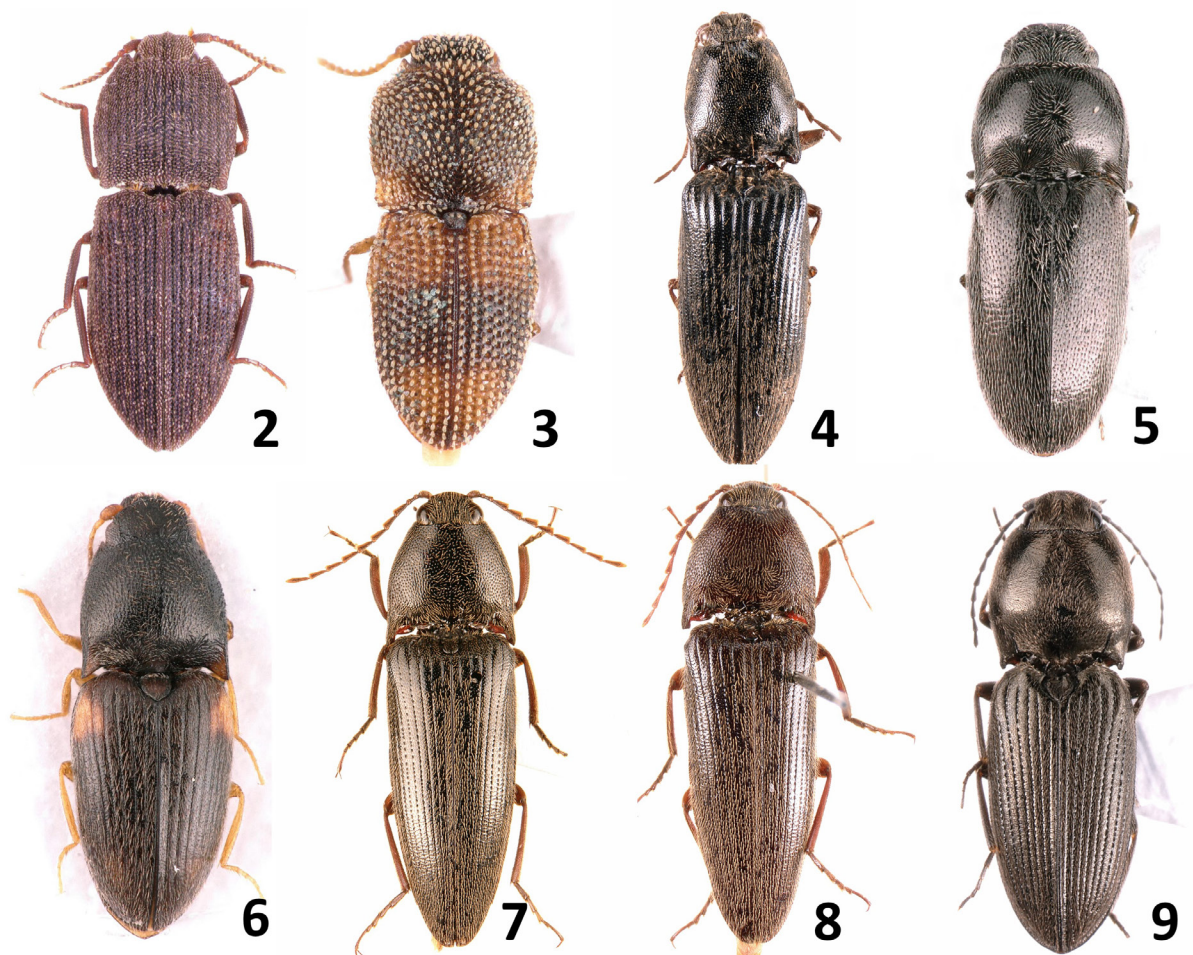


図 2-9 上三島のコメツキムシ (Elaterid beetles of the Kami-Mishima Islands).

2, ハマベヒメサビキコリ *Agrypnus (Colaulon) miyamotoi miyamotoi* (Nakane et Kishii, 1955) (竹島: 8.5 mm); 3, ケシツブスナサビキコリ *Rismethus ryukyuensis* Ôhira, 1999 (硫黄島: 2.6 mm); 4, クロツヤハダコメツキ口永良部島亜種 *Hemicrepidius secessus okadomei* (Ôhira, 1966) (黒島: 14.7 mm); 5, ウグリチビマメコメツキ口永良部島亜種 *Quasimus uguriensis heianus* Kishii, 1970, ♂ (竹島: 2.1 mm); 6, チビミズギワコメツキ属の一種 *Zoroachros (Pronegastrius)* sp. (黒島: 2.4 mm); 7, クシコメツキ名義タイプ亜種 *Melanotus legatus legatus* Candèze, 1860, ♂ (黒島: 16.8 mm); 8, ワタナベクシコメツキ *Melanotus watanabei* Ôhira, 2002, ♂ (黒島: 16.7 mm [Holotype]); 9, ヤクコハナコメツキ *Paracardiophorus nakanei nakanei* Ôhira, 1986 (硫黄島: 5.0 mm).

5. フタモンウバタマコメツキ

Cryptalaus larvatus (Candèze, 1874)

【黒島】

文献記録: 大平 (1976: 35: pl. 8, fig. F [*Paracalais putridus pini*]); 藤田 (1978: 24 [同]); 福田・廣森 (2002: 32 [*Paracalais larvatus pini*]); 中峯ほか (2007: 93 [*Paracalais larvatus larvatus*]); 大平 (2002a: 13, pl. 4, fig. D [*Cryptalaus larvatus pini*]).

採集記録: 1 ♂, 大里, 9. III. 2018, 小島弘昭採集.

【硫黄島】

文献記録: 大平 (2002a [同]).

採集記録: 1 ♀, キャラバンパーク, 28. VI. 2023, 堀内一樹採集.

備考. 本種は大きさや、翅端の形状、斑紋の状態などにより 2 亜種に分けられているが、その識別は微妙なため、それぞれの分布域についても研究者により意見が分かれている。ここではこの軽微な形質差異を基にあえて亜種を区別することは控えた。

6. ヤエヤマサビコメツキ

Lacon (Alaotypus) yayeyamanus (Miwa, 1934)

【黒島】

文献記録: 大平 (1976: 35, pl. 8, fig. D [*Alaotypus yayeyamanus*]); 藤田 (1978: 24 [*Alaotypus yayeyamanus* (!)]).

備考. 琉球の島々に広く生息する普通種であるが、黒島や近隣の屋久島、九州本土からの記録は少ない。

7. ヒメクシヒゲコメツキ

Collisarius okinawensis (Ôhira, 1967)

【黒島】

文献記録：大平 (2002a: 13, pl. 4, fig. C [*Tetrigus okinawensis*]).

採集記録：3 ♀♀, 中里林道, 28. VII. 2009, 土屋利行採集.

備考. 琉球列島の島々に広く分布するが、黒島はその北限に位置する。近隣の島では奄美大島から記録があるが、より近い種子島や屋久島からの記録がないのはたいへん興味深い。

8. スジマダラチビコメツキ

Aeoloderma brachmanum (Candèze, 1859)

【黒島】

文献記録：水野・岸井 (2014: 125 [*Aeoloderma brachmana*]).

備考. 本州以西の各地から記録があるが、分布の北部地域では個体数が少ない。

9. マダラチビコメツキ

Drasterius agnatus (Candèze, 1873)

【黒島】

文献記録：大平 (2002a: 14 [*Prodrasterius agnatus*]).

備考. 国内では北海道～沖縄島まで記録があるが、九州以南の島々の記録は少ない。琉球列島からも記録があるが、酷似した種と誤認した可能性が高い。

10. クロツヤハダコメツキ口永良部島亜種 (図4)

Hemicrepidius secessus okadomei (Ôhira, 1966)

【黒島】

文献記録：藤田 (1978: 24 [*Pseudathous (Pseudathous) okadomei yakuensis* Kishii, 1969]).

採集記録：1 ex., 櫓岳, 4. VII. 2016, 小島弘昭採集；3 exs., 櫓岳, 5. VII. 2016, 小島弘昭採集；1 ex., カムゴ山, 2. VII. 2023, 柳原健人採集.

11. ウグリチビマメコメツキ口永良部島亜種 (図5, 10, 11)

Quasimus uguriensis heianus Kishii, 1970

【硫黄島*】

採集記録：1 ex., 27. VI. 2023, 柳原健人採集；4 exs., 28. VI. 2023, 柳原健人採集.

【竹島*】

採集記録：14 exs., 籠港, 17. IV. 2023, 小島弘昭採集.

備考. 体長 2.0-2.1mm. 長楕円形。体は黒色で、脚は暗褐色を呈し、背面は強い光沢を放つ。背面は灰色の毛で被われ、前胸背板の頂部では毛が中央部に向かって傾く。触角は前胸背板後角をわずかに超える程度。前胸背板は強く膨隆し、両側は後角手前でわずかに波曲し、後角は尖る。小盾板の環状の隆起線は丸みを帯びた五角形。後胸腹板の環状隆起線は丸みを帯びた三角形で、最大幅と長さがほぼ等しい (Fig. 10)。雄交尾器は図示した形状を呈し、中央片の末端部は太く、その先端は広く丸まる (Fig. 9)。

上三島産の個体は、Kishii (1970, 1976) に図示された小盾板と雄交尾器中央片の形状が酷似することから本種と同定した。ただし、後胸腹板の環状隆起線の構造は図示されたものに比べるとわずかに短いという違いが認められた。

口永良部島から記載された種で、その後、種子島からの記録がある (Arimoto & Itô, 2018)。上三島からはこれが最初の記録となる。

12. チビミズギワコメツキ属の一種 (図6)

Zorochros (Pronegastrius) sp.

【硫黄島*】

文献記録：大平 (2002a: 14 [*Pronegastrius humeralis humeralis* (Candèze, 1873)]).

備考. カタモンチビコメツキが硫黄島から記録された際、採集された個体は「ナイターに飛来した」との記述がされている (大平, 2002a)。しかしながら、カタモンチビコメツキは後翅を欠くことがひとつの特徴とされていたため、この記述に疑問をもち、記録の基となった標本の調査を行った。幸い、大平仁夫博士のコレクションの中から見つけ出すことができたので、詳しく調べたところ、カタモンチビコメツキに比べと体が大型であること、後翅は十分に発達していること、また上翅肩部の黄色斑は大きく、翅端 1/4 あたりの左右にやや不明瞭な赤褐色斑を有するなどの特徴が認められ、カタモンチビコメツキとは明らかに別種であることが明らかとなった。また、前胸腹側板の外縁には触角の一部を収める浅い溝が認められたため、チビミズギワコメツキ属の *Pronegastrius* 亜属に所属するものであることが確認された。既知種の中に一致する種を見いだすことができなかったため、硫黄島産のこのコメツキムシは新種と考えられる。以上のようにカタモンチビコメ

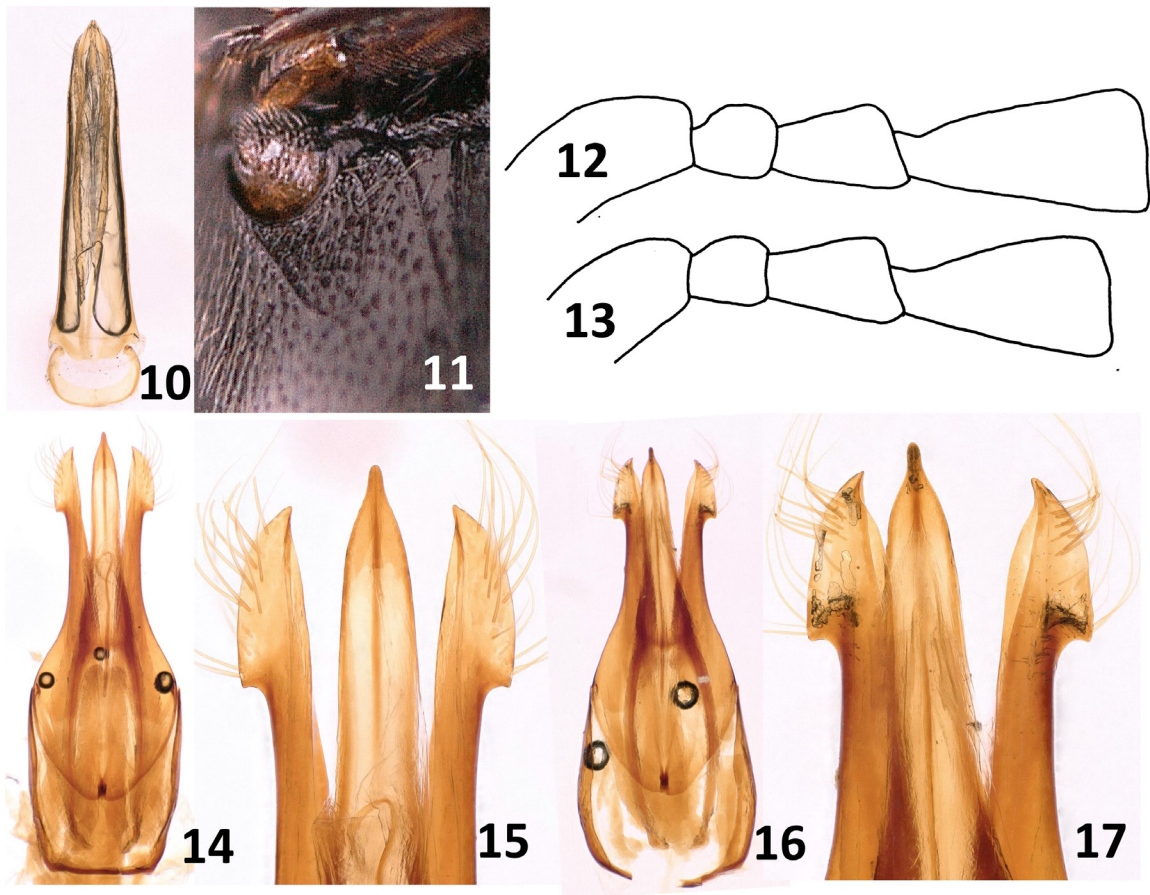


図 10 - 17 上三島産コメツキムシの各部形態

(Some morphological features of elaterid beetles found from the Kami-Mishima Islands)

10, ウグリチビマメコメツキ口永良部島亜種 *Quasimus uguriensis heianus* Kishii, 1970 の雄交尾器 (竹島); 11, 同, 後胸腹板の隆起線 (竹島); 12, クシコメツキ名義タイプ亜種 *Melanotus legatus legatus* Candèze, 1860, 同 (黒島); 13, ワタナベクシコメツキ *Melanotus watanabei* Ôhira, 2002 の雄右触角基部 4 節 (黒島 [Holotype]); 14 - 15, クシコメツキ名義タイプ亜種 *Melanotus legatus legatus* Candèze, 1860 の雄交尾器 (黒島); 16 - 17, ワタナベクシコメツキ *Melanotus watanabei* Ôhira, 2002 の雄交尾器 (黒島 [Paratype]).

ツキの硫黄島からの記録は誤りであることが明らかになったので、種の分布域から硫黄島を除外する。

大平 (2002a) で本種がカタモンチビコメツキとして記録した際は、硫黄島の詳細な地名については明記されていないが、採集に同行された浅岡孝知氏によると「空港前のやや高い道路でライト・トラップを実施...」(浅岡, 2012) ということなので、硫黄島の西部で採集されたものと思われる。

13. アカハラクロコメツキ屋久島亜種

Ampedus hypogastricus kosugi Kishii, 1982

【黒島*】

採集記録: 1 ex., 大里, 7. V. 2017, 小島弘昭採集;
1 ex., 上中里, 7. V. 2017, 小島弘昭採集。

備考. 日本本土に広く生息する名義タイプ亜種とは、本亜種はより大型であること、触角第 4 ~ 10 節各

節の幅長比がより小さいこと、雄交尾器側片の外縁角がより強く突出し尖ることで識別される。屋久島特産亜種として知られてきたが、上三島からはこれが最初の記録となる。

14. チャイロコメツキ屋久島亜種

Haterumelater bicarinatus yaku Kishii, 1976

【黒島】

文献記録: 大平 (1976: 36 [*Hatemelater* (!) *bicarinatus bicarinatus*]); 藤田 (1978: 24 [*Hatemelater* (!) *bicarinatus yaku*]).

備考. 屋久島から記載された亜種で、他に種子島からの記録もある。

15. ヒメホソキコメツキ

Agaripenthes helvolus (Candèze, 1873)

【黒島*】

採集記録：1 ex., 大里～片泊, 5. VII. 2016, 小島弘昭採集.

備考. 本種は北海道から九州地域にかけて広く生息する(鈴木茂, 2024)。黒島は、屋久島や種子島と並び分布のほぼ南限に位置する。近隣の屋久島からは、本種に酷似したヤクシマホソキコメツキ *A. shibatai* (Kishii, 1969) が知られているが、触角が短く、前胸背板後角を大きく超えないことで識別される。上三島からはこれが最初の記録となる。

16. クシコメツキ (図 7, 12, 14, 15)

Melanotus legatus legatus Candèze, 1860

【黒島】

文献記録：大平 (1976: 36, pl. 8, fig. E [*Melanotus (Melanotus) legatus*]); 中峯ほか (2012: 93 [*Melanotus sp.*]); 福田・廣森 (2002: 32 [*Melanotus legatus*]).

採集記録：1 ♂ 1 ♀, “Nakazato-rindo / Kuro-shima, Mishima / Kagoshima-ken, Japan/ 17. Vii. 2008 / Koji Nakamine leg. // 登録番号 00700806 ~ 00700807 / クシコメツキの一種 / コメツキムシ科 / 鹿児島県立博物館 [中峯ほか (2012) によりクシコメツキの一種として記録された個体]” (鹿児島県立博物館所蔵).

備考. 中峯ほか (2012) によりクシコメツキムシの一種として記録されたものは、記録に用いられた個体の調査により、クシコメツキ名義タイプ亜種であることが明らかになったので、ここでデータを付けて記録しておく。クシコメツキは黒島の近隣から九州本土に名義タイプ亜種が、そして屋久島～トカラ列島からはトカラ亜種 *M. l. ogatai* Kishii, 1988 の 2 亜種が知られているが、黒島産の個体は、雄交尾器側片末端拡張部がトカラ亜種に比べ長いことから、名義タイプ亜種と同定した。

本種は、次種のワタナベクシコメツキに酷似するが、触角はより長く、雄では前胸背板後角を少なくとも 1 節以上超えること、第 4 節 (図 11) は長く、第 2・3 節の合計より明らかに長いことにより識別できる。

17. ワタナベクシコメツキ (図 7, 12, 15, 16)

Melanotus watanabei Ôhira, 2002

【黒島】

文献記録：Ôhira (2002b: 337-339, figs. 1-2 [*Melanotus (Melanotus) watanabei*]).

採集記録：2 ♂♂ 5 ♀♀, 6. VII. 1978, 藤田宏採集;

1 ♀, 7. VII. 1978, 藤田宏採集; 1 ♀, 9. VII. 1978, 藤田宏採集; 1 ♂, 15. VII. 1978, 藤田宏採集; 1 ex., 樽岳, 4. VII. 2016, 小島弘昭採集; 3 exs., 大里, 4. VII. 2016, 小島弘昭採集; 2 exs., 大里, 7. V. 2017, 小島弘昭採集; 1 ex., 上中里, 7. V. 2017, 小島弘昭採集; 1 ex., 中里林道 (中里～上中里), 7. V. 2017, 小島弘昭採集.

備考. 大平仁夫博士により 2001 年 7 月 24-26 日に黒島で採集された 2 雄 3 雌の標本に基づいて記載されたコメツキムシで黒島特産種である (2002b)。

前種のクシコメツキに似るが、体はより幅広く強壮で、触角はやや短く、雄でも前胸背板後角をわずかに超える程度。第 4 節は第 2・3 の合計とほぼ等しく (Fig. 12), 前胸腹板突起は水平に近く、背側に反り上がらない。また、雄交尾器側片末端拡張部は短い (Fig. 16) ことにより識別される。

原記載以降の記録がなかったことから、珍しい種と考えられていたが、今回の調査で一定数の個体が採集された状況を踏まえると、この種は決して希少なものである可能性が高い。今後の調査を通じて、未知の生態が解明されることを期待したい。

18. サトウクシコメツキ

Melanotus satoi Ôhira, 1967

【黒島】

文献記録：藤田 (1978: 24 [*Melanotus (Melanotus) loochooensis satoi*]).

採集記録：2 ♂♂ 1 ♀, 片泊, 15. V. 2016, 青木淳一採集; 1 ex., 中里林道 (中里～上中里), 7. V. 2017, 小島弘昭採集; 1 ex., 中里林道 (中里～片泊), 10. V. 2017, 小島弘昭採集; 1 ex., 大里, 10. V. 2017, 小島弘昭採集.

備考. 本種は以前リュウキュウクシコメツキ *Melanotus loochooensis* とされていた種の亜種として記載されたものであるが、後に真のリュウキュウクシコメツキは全くの別種であることがわかり、現在は上記のように独立種として扱われている。本種の北限は鹿児島県の佐多岬であるが、上三島はそれに続き黒島は本種の分布域の北限に位置する。

19. ヒラタクロクシコメツキ屋久島亜種

Melanotus correctus isshikii Miwa, 1929

【黒島*】

採集記録：2 exs., 大里, 7. V. 2017, 小島弘昭採集; 3 exs., 横岳山, 7. V. 2017, 小島弘昭採集; 3 exs., 横岳山, 8. V. 2017, 小島弘昭採集; 3 exs., カムゴ

山～横岳山, 8. V. 2017, 小島弘昭採集; 2 exs., 上中里, 7. V. 2017, 小島弘昭採集; 4 exs., 中里林道(中里～上中里), 7. V. 2017, 小島弘昭採集; 1 ex., 中里林道(中里～片泊), 10. V. 2017, 小島弘昭採集; 1 ex., 大里, 10. V. 2017, 小島弘昭採集; 1 ex., 片泊～大里, 10. V. 2017, 小島弘昭採集.

備考. 黒島産の個体は, 名義タイプ亜種に比べ小型で, 屋久島産の個体に酷似する。しかし, 腹部腹板の色彩が屋久島産では全体が赤褐色になるのに対し, 黒島産では末端節だけがわずかに暗褐色～赤褐色を呈するなどの違いが認められた。奄美大島から最近発見された個体では, 腹部腹板全体がほぼ黒色を呈することが知られており(鈴木, 2024), 本種の分布域の南部に位置する薩南諸島では島嶼により腹部の色彩に変異があるようである。ここでは, 小型であることと, 一部ではあるが腹部腹板が赤味を帯びることから, 屋久島亜種とした。上三島からはこれが最初の記録となる。

20. クチブトコメツキ

Parasilesis musculus (Candèze, 1873)

【黒島】

文献記録: 大平 (1976: 36 [*Silesis musculus*]); 藤田 (1978: 24 [*Parsilesis yaku*]).

備考. 藤田 (1978) によりヤククチブトコメツキ *Parsilesis yaku* Kishii, 1976 という学名で記録されたものは, 本種のことである。

21. クリイロアシブトコメツキ琉球亜種

Podeonius aquilus ryukyuensis (Ôhira, 1968)

【黒島】

文献記録: 水野・岸井 (2014: 159 [*Podeonius aquilus ryukyuensis*]).

備考. 名義タイプ亜種は本州, 四国, 九州に分布し, 南西諸島は琉球亜種となる。黒島は琉球亜種の北限に位置する。

22. ヤクコハナコメツキ (図9)

Paracardiophorus nakanei nakanei Ôhira, 1986

【硫黄島】

文献記録: 大平 (2002a: 14 [*Paracardiophorus nakanei nakanei*]).

採集記録: 1 ex., 平家城跡, 27. VI. 2023, 堀内一樹採集; 1 ex., 稲村岳, 27. IX. 2023, 柳原健人採集.

備考. 屋久島の永田や宮之浦で採集された個体に基づいて記載されたコメツキムシで, 屋久島以外では

硫黄島の記録があるだけである。なお, 九州以北(本州, 四国, 九州)の個体群は本土亜種 *subsp. hondoensis* Ôhira, 1997 として識別されている。

23. アカアシコハナコメツキ

Paracardiophorus sequens sequens (Candèze, 1873)

【硫黄島】

文献記録: 大平 (2002a: 14 [*Paracardiophorus sequens sequens*]).

備考. 海浜などの砂地に生息する種である。

まとめ

本研究は, 2016年7月～2023年10月にかけて鹿児島県上三島において採集されたコメツキムシの資料に加え, 上三島からこれまでに報告された記録や手元の資料を合わせて整理し, まとめたものである。結果として, 竹島からは4種(うち新記録3種), 硫黄島からは7種(同3種), そして黒島からは19種(同4種)が確認された。一方, 以前に記録された標本の再調査により黒島から記録のあった1種が除外された。

この諸島全体に生息するコメツキムシを整理すると23種となる。最も多くの種が確認されたのは上三島の中では面積が最大で, 自然植生が良く残されている黒島であった。それに比べ種数が少なかったのは, 自然植生が極めて乏しいことが知られている(寺田, 1996, 1998), 竹島と硫黄島であった。

上三島がコメツキムシとして興味深いのは, 黒島に特産種のワタナベクシコメツキが生息することに加え, 今回, 硫黄島から確認されたチビミズギワコメツキ属の未記載種が存在することである。他の甲虫においても上三島特産の種は少ないだけに貴重な存在といえる。上三島で確認されたコメツキムシ個々の分布様式に着目してみると, 上三島やその周辺において分布の南限や北限となる種(亜種)が少なく, コメツキムシの分布を考える上でも興味深い地域ともいえる。現時点で上三島全体から確認されたコメツキムシの種数は少ないが, 九州本土に近いことや, 黒島には豊かな自然植生が現在も良く残されていることを考えると, より多くの種が発見される可能性が高いと思われる。一方, 今回未記載種が発見された島が, 上三島の中でも植生が最も貧弱な硫黄島であったことは特筆すべきである。硫黄島に固有の種とは考えにくく, 隣接する島々にも生息している可能性が高いと思われる。今後も継続した調査が求められる。

引用・参考文献

- Arimoto, K. & R. Itô (2018) Elateridae (Insecta, Coleoptera) from Tanegashima Island (Ryuku Islands, Japan). Check List, 14 (4): 681-692. <https://doi.org/10.15560/14.4.681>.
- 浅岡孝知 (2012) 日本の島嶼への誘い. 230 pp. 三河生物同好会.
- 藤田宏 (1978) 鹿児島県三島村. 月刊むし, (92): 16-25.
- 福田晴夫・廣森敏昭 (2002) 鹿児島県三島村黒島 2001 年 6 月の昆虫類. 鹿児島県立博物館研究報告, (21): 27-46.
- Kishii, T. (1988) Some click beetles from the Nansei Islands collected by Mr. T. Ogata (Coleoptera, Elateridae). Notes on Elateridae from Japan and its adjacent area (7). Entomological Review of Japan, Osaka, 43: 123-134, pls. 9-10.
- 公益財団法人日本離島センター (2019) 新版「日本の島ガイド」SHIMADAS (シマダス). 1711 pp., 32 maps.
- 水野弘造・岸井 尚 (2014) 大阪市立自然史博物館所蔵甲虫目録 (3) コメツキムシ科 (1). 大阪市立自然史博物館収蔵資料目録. 46: 113-198.
- 中峯浩司 (2006) 鹿児島県三島・竹島 2005 年 8 月の昆虫類. 鹿児島県立博物館研究報告, (25): 56-62.
- 中峯浩司・江平憲治・今村久雄 (2007) 鹿児島県三島村黒島における 2006 年 7 月の昆虫類. 鹿児島県立博物館研究報告, (26): 89-101.
- 大平仁夫 (1976) 九州に産するコメツキムシ科の珍種 (15). 北九州の昆虫, 22: 35-37, pl. 8.
- Ôhira, H. (1986) Two new species and a new subspecies of Elateridae from Japan (Coleoptera). Papers on Entomology Presented to Prof. Takehiko Nakane in Commemoration of his Retirement: 213-218. Japanese Society of the Coleopterology.
- 大平仁夫 (1997a) 日本産コハナコメツキとその近似種について (甲虫目: コメツキムシ科). 比和科学博物館研究報告, (35): 1-16, pls. 1-14.
- 大平仁夫 (1997b) 三島村黒島のヒメサビキコリ. 北九州の昆虫, 44 (2): 154.
- 大平仁夫 (2002a) 鹿児島県三島村の硫黄島と黒島のコメツキムシ採集記. 北九州の昆虫, 49: 11-15, pl. 1.
- Ôhira, H. (2002b) New or little-known Elateridae (Coleoptera) from Japan, XLII. Special Bulletin of the Japanese Society of Coleopterology, (5): 337-339.
- 清水敏夫・村山輝記 (2004) 鹿児島県三島村黒島におけるノコギリクワガタの 1 新種. 月刊むし, (396): 10-15.
- 鈴木 茂 (2024) 日本列島の甲虫全種目録 (2024 年). <https://japanesebeetles.jimdo.free.com/> (2024 年 7 月 3 日閲覧)
- 鈴木 互 (2024) 奄美大島におけるヒラタクロクシコメツキの記録. さやばねニューシリーズ, (54): 32-33.
- 寺田仁志 (1996) 鹿児島県・黒島の植生と現存植生図. 鹿児島県立博物館研究報告, (15): 9-38.
- 寺田仁志 (1998) 鹿児島県竹島と硫黄島の植生と硫黄島の植物相. 鹿児島県立博物館研究報告, (17): 1-33.
- 土屋利行 (2003) 九州南部離島産コクワガタの再検討. 月刊むし, (390): 42-51.